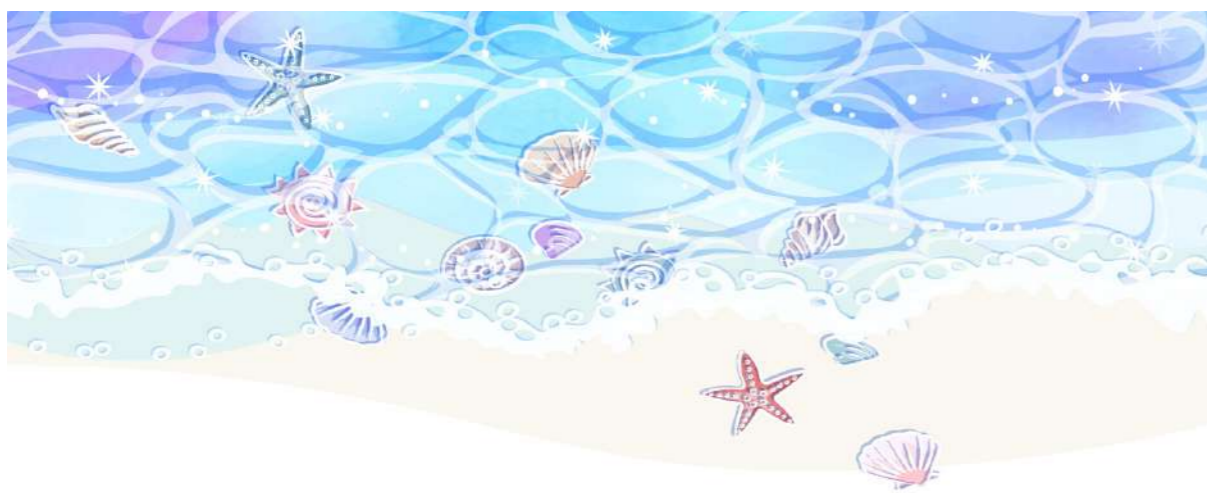


2023.7.6



TSUNAGARU

一人の子どもや若者も取り残さない社会をつくる
さいたまユースマガジン

7 / 006
2023

- つながる -



特集

学習支援事業について
地域の居場所 Commons Cafe

NPO法人さいたまユースサポートネット
<https://saitamayouthnet.org/>

NPO法人さいたまユースサポートネット
[saitamayouth](https://saitamayouth.net)

合言葉は

同じってうれしい！
違うってたのしい！

てんきりん多文化クラブ（第1・第3土曜日）

地球っ子グループ・あそび舎てんきりん
地域日本語教育コーディネーター

芳賀洋子

<https://chikyukko.github.io/>

ユースサポートに、

多様な背景を持った多文化の子どもたちが集まってきました。

「宿題、一緒にやって」「算数の新しいとこの問題できなかった」と言うこともあるし、「フルーツバスケットやろう！」とか「お団子作ろうよ！」と言ったこともありました。

先日は、怖い話にはまっている子が、みんなに宿題を出しました。私たちは、次回までに怖い話を三つ書いて、漢字の練習もして、発表の練習もしていかななくてはなりません。ここは、しばしば立場が入れ替わり、子ども達のやりたいことができる場所。私たち大人の役割は、子どもたちのことをしっかり受け止めて安心できる大人であることだと思っています。

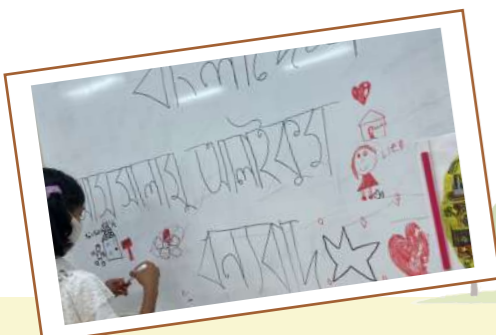
こうした子どもたちとの関わりの中で、とても大事にしていることがあります。それは、彼らの母語を大切にすること。母語が育たないと、親子間での深い話ができなくなったり、母語に誇りを持ってなくなったりします。そして、それは自分自身のルーツに誇りを持ってないことに繋がり、大きな障壁になります。私たちは、子どもたちの母語（ベンガル語、ダリー語、中国語など）はできませんが、その言葉を大切にすることを支えることができます。

そうした取り組みとして、時々、世界のお茶カフェなどを開きます。それぞれの国のお茶を飲みながら、お国の遊びや絵のような文字を教えてもらったりして話がはずみます。

先日はインドネシアの人に遊びを紹介してもらいました。なんと、日本の懐かしいゴムとびと同じ。でも、ゴムのつなぎ方が違います。2重にして、たっぷり使っている。ゴムを生産する国だからかもしれませんね。そのゴムとび、年配の日本人はみんなできるのに子どもたちはできない。国の違いより世代の違いの方が大きいようでした。

違う文化や言葉を持った人との交流は、とっても刺激的で面白いです。自分のルーツについて語る外国出身の仲間は生き生きとして魅力的です。そんな気づきが、多文化共生の街、多様性の豊かな地域をつくる大きな力になるはず。目の前にいる外国ルーツの子どもたちは、これからの日本を共に支える大切な子どもたちです。彼らが自分のルーツに誇りを持って、二つの国を愛する豊かな子どもに育つように、私たち自身が変わっていきたい。地域のみなさま、世界のお茶カフェでお待ちしていますね！

てんきりんは、さいたまユースサポートネットと協働で、
外国にルーツがある多文化の子どもたちの居場所作りをしています。



ボランティアにインタビューしてみた。

あの場所から離れたら 人生損するだろう

——何故このボランティアをしようと思ったのですか？
(若者自立支援ルーム(南浦和)・たまり場でボランティア経験あり)

私がボランティアをしようと思ったきっかけは2つあります。1つは元々実習生として携わっていて、その時から活動がすべて楽しい、面白いと感じたからです。2つ目は実習生が終わり、大学2年生になった4月に、道を歩いている時、ふと「あの場所から離れたら人生損するだろう」と、頭をよぎり、ボランティアに応募しました。

始める前に様々な説明を受け、初めは自分に務まるか心配でしたが、実際初めて見ると、生徒と一緒に話をしたり、学習を行ったりするのはとても楽しいです。中高生と関わる機会はあまりないため、共通の話題を見つけた時の嬉しさなどをこのボランティアを通じて知り、貴重な経験が出来ていると感じます。

貴重な経験となる

——ボランティアをした感想は？
(学習支援教室
中・高生教室でボランティア経験あり)

今日あなたが関わったことで 誰かの未来が少し変わっていた、 かもしれない

——まだボランティアしたことがない人へ一言
(あそぼくすほりさきでボランティア経験あり)

社会貢献としてのボランティアはあなた自身と未来のための活動です。と言ってもボランティアを始めるのに崇高な理由なんていらぬし、社会を良くするために必要なのは、夢や情熱という綺麗なものだけではなく、そこにあるのはリアルな部分。それは人員や資金などの大量のリソースを必要としている。だからこそあなた一人の参加が大きな力になります。就職で有利になるから、自己満足、暇だから、たまたま知り合いに誘われたから、入りがどんなカタチ、理由であれメッキも塗り重ねれば本物に変わっていくものだから。

ハーバードの「人間の幸福と健康に関する研究」において、最終的に一番重要なファクターは良好な人間関係を構築できている事、となっていたことから、仕事や学業などだけでなく、様々な軸の関係性を築き、多視点からのモノのミカタを持つことの重要性は大きい。いつもと違うコミュニティ、年齢やバックグラウンドの違う人間との繋がり、今日あなたが関わったことで誰かの未来が少し変わっていた、かもしれない。こんなにも社会に必要とされ役立っていることを実感するものはない。それが何より気持ちいいのだ。普通に暮らしていてこんなに面白い事はあるだろうか？あなたにもぜひこの感覚を味わってほしい。ここにはそれがあります。あなたと未来のための種まき、ボランティアは自分自身の未来のための活動、私はいつでもあなたを待っています！

否定しない
ひとりひとりに合わせる
考えてもらおう

——ボランティアの内容はどの様な内容ですか？
(学習支援教室 中・高生教室でボランティア経験あり)

勉強に関係ない雑談を多くするようにしています。自分の失敗なども隠さずに話します。そして、子どもの他愛ない話も否定せず黙って聴くことを心がけています。勉強では、主に数学、英語と理科を教えることが多いです。これらの科目は学校で苦手意識を持ってしまった人が多いので、学校と同じ教え方を「しない」ことを心がけています。そして点数を稼ぐためのテクニックではなく、どう説明したら理解してもらえるのか、ひとりひとりに合わせて説明し、自分で考えてもらうようにしています。

＼インタビュー全文はブログで公開中！／



今回は4人のボランティアの方に、ボランティアに対する想いについてお聞きしました。少しでもボランティアにご興味がある方は事務局までお問い合わせください。

さいたま市 学習支援事業

さいたま市内10区で
学習支援を実施！



当初は有志で場所を借りてスタートした学習支援。現在はさいたま市の委託事業として、さいたま市内10区すべてで実施するようになりました。2012年は5つだった学習支援教室は、2023年には小学生教室・中学生教室を合わせて23教室に拡大！

さいたまユースサポートネットでは、さいたま市の学習支援事業を受託しています。学習支援事業では、さいたま市内に暮らす困窮家庭の小学生・中学生（これに相当する年齢の児童・生徒を含む）を対象として学習支援や進路相談、生活支援などを行っています。この取り組みは、全国に先駆けて2012年度から始まりました。

不登校や別室通学、支援級、外国ルーツなどを含む、多様な背景を持つ子どもたちが、大学生を中心としたボランティアのサポートを受けながら学習に励んでいます。

この教室では、予習・復習、テスト対策はもちろんのこと、以前の単元でのつまずきの克服、内申点対策なども行います。また、「ひとりでは課題が終わりそうにない」という場合も、一人ひとりの事情に合わせて支援します。

学習支援を軸に置いてはいますが、生活支援やさまざまな体験機会の提供も行っています。教室では児童・生徒一人ひとりが抱える勉強や日常生活の不安・悩み、そのほか誰かに聞いてほしいと感じている事柄などを丁寧に聞き取り、寄り添うよう努めています。



小学生教室

大学生を中心としたボランティアが学習をサポートします。現在の学年で習う単元はもちろんのこと、九九や筆算など基礎的な単元におけるつまずきまで幅広くフォロー。お喋りを交えて楽しく活動しています。各教室にはさいたまユースのスタッフが教室長として1名以上常駐し、参加者全員が安心して学べる居場所づくりを行います。

中学生教室

さいたまユースのスタッフが教室長として常駐し、大学生を中心としたボランティアが学習をサポートします。定期テスト対策や宿題をサポートするほか、独自のテストを活用して明らかにしたつまずきを補強します。学校の提出物なども期日に間に合うようにフォローしています。また、全教室で受験勉強をサポートすることももちろん、入試対策に特化した進学応援教室も開講しています。



学習支援教室について知りたい！

教室の様子や詳しい活動内容を知りたい方、ボランティアとしての参加をお考えの方は下記までご連絡ください。

【学習支援教室についてのお問い合わせ】NPO法人 さいたまユースサポートネット TEL: 048-829-7562

教室の様子

学習支援教室を利用する児童・生徒は、季節行事や異世代との交流など、さまざまな体験が不足している傾向にあります。わたしたちは、学習支援を軸としながら休憩時間にレクリエーションを取り入れたり、年間を通してイベントを企画したりすることで、机に向かうこと以外で得られる学びの機会も提供しています。



生活支援

休憩時間やテスト明けにはレクリエーションでリフレッシュ！ボードゲームなどをいっしょに遊ぶことでこれまであまり交流のなかった人と関わったり、社会性を育んだりするきっかけにもなっています。また、定期的に発行するおたよりで生活習慣の整え方や自宅学習のコツなどを発信しています。



プログラミング教室

2022年度は無料でプログラミングを学ぶことができる「scratch」などを活用したプログラミング教室も開催しました。簡単なゲーム作りを通して順次、繰り返し、条件分岐といったプログラミングの基礎的な内容を楽しく学びました。



進路サポート

おもに中3生・高3生とその保護者を対象に進路相談会を年2回開催しています。教室内でも随時、志望校選びのアドバイスや受験勉強のサポートをしています。



修了式



互いにこれまでの頑張りを称えながらみんなでビンゴ大会をしたり、ジュースで乾杯してお菓子を食ったり。日頃いっしょに学習に取り組んでいる仲間と開くパーティーは、学校のお楽しみ会ともまた違った楽しさがあるようです。



中学生教室担当
久保さん

教室長にインタビュー

やりがいを感じる瞬間は？

生徒たちが学習に向かってくれたときです。私が担当する教室には宿題などを嫌がる生徒も何人かいます。開室当初は学習を拒否していた生徒がだんだんと机に向かうようになり、解答できて喜んでる姿などを見ることができるとなると、生徒のこれまでの努力やその結果つかんだ喜びを感じて私もうれしくなります！

教室運営で気をつけているポイントは？

生徒のレベルに合わせた課題を用意すること、一気にたくさんの課題を与えないことの2点です。先ほどの回答にもあるように、教室参加者には学習意欲が低かったり、集中力が続かなかったりする生徒も少なくありません。2時間の開室時間中に英単語の曜日だけを覚えて帰る生徒もいます。焦らず長期的な目で生徒たちを見ることを大切にしています。

協働

堀崎プロジェクト カフェから始まる支え合いの場

地域の人々が集い、顔を合わせ、声を掛け合い、子どもや若者を支える場をつくっていく「堀崎プロジェクト」。その核となるのがカフェの存在です。人が出会い、会話が生まれる場所。子どもたちの笑顔が弾ける「ほりさき commonsキッチン」の様子をお届けします。



「ぼく、ちゃんと予約してあるかな？」

夕方時刻になると、あそぼくすほりさきで鬼ごっこやゲームに興じていた小学生たちが、隣接する commonsカフェに勢いよく駆け込んできます。地域の子どもたちが放課後の時間を一緒に過ごし、食卓を囲む機会を提供している「ほりさき commonsキッチン」。この日は5歳児から小学5年生まで約30人の子どもたちが参加しました。

「家でひとり遊んでいるより楽しいから」「友達と一緒にごはんが食べられるから！」お迎えにきたお母さんたちは子育て情報を交換したりカフェスタッフと談笑したり。そうした会話の中から子どもの悩みや家庭の不安をキャッチすることもあります。

commonsカフェでは、子ども食堂「ほりさき commonsキッチン」のほか、認知症の人とその家族のための「オレンジカフェ」、親たちの共感プレイス「親カフェ」といった居場所づくりを展開。身近な地域の中に、自分の存在を認め受け止めてくれる居場所がある、助けたり助けられたりできる仲間がいる、そんな安心感を共有できる場所（commons）を目指しています。

人が出会う場、会話が生まれる場であるカフェを拠点に、地域づくりにおける協働をどう萌芽させていけるか。堀崎プロジェクトの挑戦は始まったばかりです。



ほりさき commonsキッチン

- * 原則月1回開催
- * 2023年度は10回を予定
- * 参加無料

地域とつながる、あなたとつながる。

堀崎町自治会が担う地域の役割



▲堀崎町自治会館の桜



▲堀崎町自治会大運動会

堀崎町自治会の紹介

堀崎町全体の面積は約78万平方メートルです。堀崎町自治会はこの地域に住む方々を対象とする大きな自治会です。令和4年度さいたま市統計書によると、堀崎町の人口は8182人、世帯数は3706世帯です。（令和4年4月1日現在）このうち自治会に加入している会員は現在、2141人（世帯）ですから加入率は58%になります。加入率を上げることは自治会の課題です。

堀崎町自治会は毎年、運動会、交通・防犯パレード、夏祭り、盆踊り、バス旅行、敬老の日、文化祭、囲碁将棋大会、餅つき大会などの多くの行事を行ってきました。堀崎中央公園と上ノ台公園の清掃も毎月継続して行っています。コロナ禍のため中止された行事もたくさんありましたが、今年度はこれらの行事を復活させるべく自治会挙げて準備を進めています。

防災訓練は自治会全体の訓練の他、地区ごとの訓練も毎年行っています。また自治会館は身近な地域の防災拠点にもなっていますので、防災拠点の運営訓練も行っています。

ところで、NPOさいたまユースサポートネットさんには堀崎町自治会の賛助会員になっていただいております。自治会の広報紙でもその活動を紹介させていただいております。また、堀崎中央公園で開催する堀崎町大運動会の際には、ユースサポートネットさんの建屋から電源をお借りしたり、ユースサポートさんの若者支援の一環として自治会館の庭の清掃を手伝っていただいたり、自治会としても大変お世話になっております。堀崎町自治会は、このような地域の施設との連携も含めて、会員の皆様に積極的に参加していただきながら、安心、安全で住みよい街づくりに貢献していきたいと活動を続けておりますので、今後も皆様の一層のご協力をお願いいたします。

堀崎町自治会長 山田 和幸

《 応援プログラム 》

あなたのおかげで、 できることがたくさんあります。

たとえコーヒー1日1杯分のご寄付でも子どもや若者たちを救えます。

月1,000円

食事を児童3人に1日提供できます。児童に勉強を教えることができます。

月3,000円

食事を児童3人に3日間提供できます。子ども1人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月5,000円

食事を児童3人に5日間提供できます。絵具、書道セットなどを提供できます。

貧困、いじめ、不登校、引きこもり、障害、高校中退……生きづらさを抱えた子どもや若者たちがいます。その困難が、「社会の中で見えづらくなっている」そのこと自体が私たちの課題です。

お金だけではなく、物品のご提供でも子ども・若者支援のチカラとなります。

子ども・若者のために 寄付をする

